



JSQC ニュース

No.323

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 職域会員の新設のお知らせ
- 2-私の提言 質の時制 (Tense of Quality)
- 2-研究会だより 先進的生産方式に対する工程管理研究会
- 3-第42年度 品質管理推進功労賞推薦のお願い/行事案内
- 4-行事案内

職域会員の新設のお知らせ

会員サービス委員会 委員長 渡辺 喜道

当学会の目的は、品質管理に関する研究開発と実践、会員相互間および内外関連機関との連絡提携の場を提供することで、品質管理に関する新たな方法論の開発と深い知識と高い実践力を持った専門家の育成を図り、もって産業・社会の発展に寄与することとされています。これをさらに推し進めるために、第42回通常総会において、新しい会員区分である「職域会員」を設けることが認められました。この会員制度を活用することにより、これを利用する組織が、当学会の持つ有益な品質管理の手法やアジア諸国の品質管理情報などを継続的に活用していくことが可能となります。

企業・組織の会員資格として、従来は「正会員」（個人による参画）と「賛助会員」（組織による参画）の2種類の会員区分を設けておりました。

新設された「職域会員」は、組織の職位（品質担当副社長、品質保証部長、TQM推進室長、品質管理課長、品質グループリーダーなど）として、日本品質管理学会に参画することを認めた会員区分です。おそらく、このような制度を認めている学会は、他にはないと思います。実務との密接な連携が重要で、専門家の育成を短期間に行うことが難しい品質管理分野ならではの会員区分と考えております。是非、正会員・賛助会員に加えて、この会員区分をご活用いた

だき、グローバルな事業競争を生き残るため、組織の中で求められる品質管理専門家の継続的な育成や事故を未然に防止する体制構築にお役立てください。

職域会員は、団体（大学等の研究・教育機関を除く）の品質管理に関係ある職域に携わる方で「個人が特定できる職名（品質保証部長など）」の方を対象にしています。代議員・役員・被選挙権がない以外は正会員と同等な権利を有します。また、年度内に2回まで会員名・資格の変更ができます。

費用は、入会金1,000円、年度会費10,000円です。正会員から職域会員になるには、2,000円の差額会費を納めることにより、年度の途中でも資格の変更が可能です。

職域会員のメリットをまとめると以下となります。

- ・企業・組織の会計処理として会費を収めることができる。
- ・参画メンバーの交代手続きが簡単に行える。
- ・実務との密接な連携を図ることができる。
- ・職位就任と連動して最新の品質管理の知見が向上する。
- ・職位としての継続的な品質手法の獲得や向上が維持される。
- ・組織として、グローバルな品質手法や規制情報などを獲得できる。

次に、職域会員の活用事例を紹介いたします。

- 1) 品質管理に関する業務を担当する人が、業務に必要な専門知識を身につけることができるよう、品質管理部門の主要な職位の人を職域会員とする。
- 2) 全社的な品質管理活動を牽引できる高い専門能力を持った人を育成するためにその候補となる人を正会員にするとともに、それぞれの部門において品質管理を実践する上で主要な職位にある人を職域会員とすることで、全社的な推進体制を構築する。
- 3) 品質管理部門の主要な職位の人を職域会員としておき、社会的責務として学会の役員・代議員を引き受ける場合には正会員になる（代わりに当該職位の次期候補者などを職域会員にする）。
- 4) 学会のシンポジウム・研究発表会等に必要に応じて参加できるよう賛助会員となっているが、特定の職位の人を職域会員としても登録し、継続的に専門知識を身につけ、研究発表や論文投稿ができるようにする。

以上、新しい会員区分である職域会員の概要について、紹介しました。日本品質管理学会に継続的に参画いただくためのひとつの手段として、職域会員の活用をご検討ください。

● 私の提言 ●

質の時制 (Tense of Quality)

目白大学 経営学研究科 教授 高橋 武則



質には3つの時制（過去、現在、未来）があります。「検査」はすでに作られたもの（過去の質）を良品・不良品に分けているだけで質を作り込んではいません。「管理」（工程管理）はいま作っているもの（現在の質）なので質を作り込んでいます。しかし、現場がどんなに頑張っても達成できる質には限界があります。何故なら質は基本的に設計の良し悪しに依存するからです。そして、設計とはこれから作るもの（未来の質）の仕様を決定することです。

日本の品質管理の力点は、これまで

の歴史において検査→管理（工程管理）→設計と進んで来ました。これはQC（品質管理）からQM（質経営）への歴史的な流れでもあります。

未来の質を考える場合には「設計」の他にあと2つのものがあります。それらは「技術開発」と「企画」です。ただし、技術開発は固有技術の守備範囲ですので、QMにとっては技術開発との連携・整合と企画が重要となります。顧客要求から入るNeeds型では企画→技術開発→設計となり、技術開発が先行するSeeds型では技術開発→企画→設計となります。したがって未来の質に属するものはその順番で近未来、中未来、遠未来の3つに分類できます。

QCの時代は検査に始まり工程管理

が進み、過去の質と現在の質がかなり充実しました。これからのQMの時代においては、設計と技術開発との連携・整合と企画が重要になると思われます。

未来の質といっても、その基盤は現在の質（工程管理）にあります。これらをしっかり固めておかないと、設計のために行った実験のデータがお粗末になり、それに基づく設計自体を誤ることになります。それは、早くは設計が試作で再現しない形で現れ、そこを何とか繕っても、その後の量産で品質保証をすることが困難になります。

現在の質は未来の質に依って立ちますが、その未来の質は現在の質を基盤としているわけです。これまでの品質管理（現在の質と過去の質）を確実に実行し、そのうえで設計および企画・技術開発（未来の質）との総合的連携を意欲的に取り組むことがこれからの課題と考えます。若い人の研究に期待するとともに、私自身も何とか頑張って研究を続けていきたいと思っています。

研究会
だより

先進的生産方式に対する工程管理研究会

ワークショップから研究会へ

主査 安井 清一（東京理科大学）

先進的生産方式に対する工程管理研究会は、2012年からスタートした研究会です。2010年から2011年の1年間活動していた「多品種少量生産に対する工程管理に関するワークショップ」のメンバーが母体となっています。ワークショップでは幾何形状のようなパターンを特性として管理したいという事例について実際に解析し、議論しました。このような特性を管理する方法は、学術的には既にひと通り出揃った感がありますが、実際に適用すると有用性の他、問題点もあることがわかり、興味深い結果が得られました。この事例は中品種中量生産ぐらいのものですが、多品種少量生産が一般化するのには生産設備の高度化が寄与しており、先進的生産方式に対する工程管理研究会は生産方式から生じる新たな問題という点に着目して設立しました。生産設備および測定技術は、ハード面にもソフト面にも高度化しており、得られるデータは多種多様で大量ではないで

しょうか。そのようなデータを効果的に工程管理に役立てたいと考えています。

メンバーは、大学側が3名、産業側が8名です。産業側のメンバーが事例を紹介し、問題を提起します。会合での議論で解析方針を決め、実際のデータ解析は大学側が受け持ちます。その結果を会合でフィードバックしながら、議論を進め、統計的工程管理の方法を開発しています。この役割分担は本研究会の特徴であると考えています。産と学が持っているそれぞれの特徴をぶつけることで触発され、議論が活性化することを狙っています。ほぼ月1回のペースで開催しており、白熱した議論を展開しています。

従来の統計的工程管理の方法では運用がうまく行かない事例を抱えられている産業側の方、データ解析の武器はたくさん持っているので、ぜひ役立てたいという大学側の方、まだメンバーに余裕がありますのでご一報下さい。

第42年度 品質管理推進功労賞： 学会員の皆様 候補者の推薦をお願いいたします！

日本品質管理学会品質管理推進功労賞は、品質管理推進に尽力されている多くの方々に活力を与え、品質管理の発展がより加速され、ひいては産業界の発展に寄与できることを願って創設されました。本年度は第13回となり、次の要領で実施いたしますので、奮ってご推薦の程お願いします。但し、推薦にあたっては次の点にご配慮ください。

- 1) 本賞選考の推薦は全てEメールにてお願いします。
- 2) 推薦に際しては、予め被推薦者の了解を得て、被推薦者本人の確認を受けた書類を送付してください。

記

本賞の授賞資格（品質管理推進功労賞内規）：

以下のいずれかの条件を満たす会員とする。

- 1) 企業・各種団体（以下、組織という。）に所属し、所属組織の品質管理の実践と推進に多大な貢献をした、もしくは、していると認められる者。
- 2) 組織に所属し、本会に対する多大な貢献があった、もしくはある者。
- 3) 組織に所属し、品質管理に対する造詣が深い者。
- 4) 本会の役員2名以上の推薦があった者。

本年度選考方針：

- a. 本年度は、既に本来の所属企業を退職している人も対象として含めるものとし、表彰対象者数は、6名以内とする。
- b. 地域・社会への貢献を重視する。
- c. 本賞対象者の推薦に際しては、55～65歳位を目安とし、70歳以上ならびに50歳以下は避ける。
- d. 本来の所属企業で取締役になった人は避ける（理事、執行役員は対象とする）。但し、子会社等へ出向し役員になった方は候補者に含めて差し支えないものとする。
- e. 女性に対する配慮を積極的に行う。
- f. 42年度のJSQC理事は、今年度の推薦対象者から外す。

評価項目：

本賞の候補者に対して、主に次の観点から評価を行う。

【A】所属組織への貢献

- a 1 TQC/TQM/標準化/QCサークル活動等の推進
- a 2 品質管理に関する表彰・認証等の受審支援
- a 3 品質保証体制の確立
- a 4 その他特筆すべき活動

【B】地域・社会への貢献

- b 1 日本品質管理学会の発展
- b 2 デミング賞委員会/品質月間/関連学会等の活動を通じた品質管理の普及・発展
- b 3 標準化推進を通じた品質管理の普及・発展
- b 4 QCサークル活動の普及・発展
- b 5 日科技連/規格協会等の関係諸団体への協力を通じた品質管理の普及・発展
- b 6 品質管理に関する国際協力
- b 7 品質管理への深い造詣に基づく著作等の活動を通じた品質管理の普及・発展
- b 8 その他特筆すべき活動

推薦必要書類：

推薦書（様式219-1）、業績リスト（様式219-2）、上司等の推薦書（様式219-3、ここで上司等とは、元・上司、現・関連部門長を含むものとする。）

様式については、下記Webページよりダウンロードしてください。

URL：http://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou.html
業績リスト（様式219-2）の業績については、上記の評価項目に対応した記述にしてください。

推薦締切：2013年6月30日(日)

メール送付先：2013kourou@jsqc.org

選考：日本品質管理学会 品質管理推進功労賞選考委員会が行う

発表：9月に開催される本学会理事会での承認後、本人ならびに推薦者に通知

表彰：2013年11月16日(土)
本学会 年次大会 授賞式（大阪大学吹田キャンパス）

連絡先：日本品質管理学会事務局

参考：http://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou/kouroushou.html

行事案内

●第144回シンポジウム（本部）

テーマ：統計・データの質マネジメント
ービッグデータ時代に問われる
情報収集の質とマネジメントー

日時：2013年4月9日(火)13:00～17:30

会場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル 2階講堂

定員：150名

申込締切：2013年4月2日(火)

プログラム：

趣旨説明：椿 広計氏（統計数理研究所）

第1部：医薬品臨床開発におけるデータの質マネジメント

「医薬品臨床開発におけるデータマネジメントの概要」

「データとドキュメントのQuality Assurance」

第2部：公的統計の品質保証

「公的統計の品質保証に関する我が国の取り組みと事例」

「統計の品質保証に関する国際動向」

「加工統計の不確かさ」

第3部：ISO20252と市場調査の取り組み

「ISO20252の概要とサービス認証、ISO20252を公的統計に利用する試み」

「市場調査の品質保証の取り組み」

詳細：ホームページをご覧ください。

申込方法：

2月送付の参加申込書にご記入の上、

本部事務局までお申し込みください。
ホームページからも申し込みできます。
<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

●第365回事業所見学会（中部）

テーマ：トヨタ車体いなべ工場 品質向上の取り組み
日 時：2013年4月12日(金)13:00～17:00
見学先：トヨタ車体 いなべ工場
定 員：40名 ※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。
参加費：会 員2,500円 非会員3,500円
準会員1,500円 一般学生2,000円
申込締切：3月22日(金)到着分まで
申込方法：中部支部事務局までE-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第91回QCサロン（関西）

テーマ：流れが品質を改善する（仮題）
ゲスト：本多正幸氏（大和ハウス工業）
日 時：2013年4月17日(水)19:00～20:30
会 場：中央電気倶楽部 5階513号室
参加費：1,000円（含軽食・当日払い）
申込方法：関西支部事務局までE-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●田口玄一博士一周忌追悼シンポジウム

テーマ：統計科学から見たタグチメソッドの現在・過去・未来
日 時：2013年5月13日(月)9:30～17:10
会 場：筑波大学東京キャンパス 134講義室
定 員：150名
詳細：<http://noe.ism.ac.jp/service-center/>
問合せ：taguchi.sympto@gmail.com

●第366回事業所見学会（関西）

テーマ：NHKにおける災害報道の品質～大阪放送局における取組み～
日 時：2013年5月17日(金)13:30～16:30
見学先：NHK 大阪放送局
定 員：30名
参加費：会 員2,500円 非会員 3,500円
準会員1,500円 一般学生 2,000円
申込方法：同封の参加申込書にご記入の上、関西支部事務局までお申し込みください。

●第146回シンポジウム（本部）

テーマ：震災時対応の成功事例から学ぶ～未然防止の知恵～
日 時：2013年5月17日(金)10:00～17:30
会 場：日本科学技術連盟千駄ヶ谷本部 1号館3階講堂
定 員：150名
参加費：会 員5,000円（締切後 5,500円）
非会員10,000円（締切後10,500円）
準会員 2,500円 一般学生3,500円
申込締切：2013年5月10日(金)
プログラム：趣旨説明：田中健次氏（電気通信大学）
講演①：「未然防止についての基本

的な考え方」

鈴木和幸氏（電気通信大学）

講演②：「成功事例の原因分析による組織学習法」

金子龍三氏（プロセスネットワーク）

事例1：BCM（事業継続マネジメント）の視点から

解説：於保鴻一氏（K0エンジニアリング）

紹介：菅原 正氏（日産自動車）

事例2：SCM（サプライチェーンマネジメント）の視点から

解説：下中大輔氏（日産自動車）

紹介：樋口邦史氏（富士ゼロックス）

事例3：事前のリスク想定視点から

解説：伊藤 誠氏（筑波大学）

紹介：櫻庭達幸氏（東北電力）

総合討論

申込方法：

同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからも申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

●第2回JSQC規格「品質管理用語」講習会（本部）

テーマ：用語の定義を通して品質管理の本質を学ぶ

日 時：2013年5月23日(木)13:00～17:00
会 場：日本科学技術連盟千駄ヶ谷本部 3号館2階講堂

詳細：ホームページをご覧ください。
申込方法：

2月送付の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからも申し込みできます。
<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

●第101回研究発表会（本部）

日 時：2013年5月25日(土)26日(日)

会 場：日本科学技術連盟 東高円寺ビル

プログラム：（予定）

・5月25日(土)

12:30～13:30

チュートリアルセッションA

「日本の製造業—これからの経営と品質—」
久米 均氏（東京大学）

13:35～14:35

チュートリアルセッションB

「会社の『品質』—グローバル・エクスレント・カンパニーズ—」

牛久保雅美氏（サンデン）

14:35～15:05 研究室紹介ポスターセッション

15:05～18:15 研究発表会

18:20～20:00 懇親会

・5月26日(日)

9:45～16:30 研究発表会

参加費：

チュートリアルセッション・研究発表会

会 員 6,000円（締切後 6,500円）

非会員12,000円（締切後12,500円）

準会員 3,000円・一般学生4,000円

研究発表会（ポスターセッション含む）

会 員 4,000円（締切後 4,500円）

非会員 8,000円（締切後 8,500円）

準会員 2,000円・一般学生3,000円

懇親会

会 員・非会員 4,000円

準会員・一般学生 2,000円

申込締切：2013年5月15日(水)

申込方法：

同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからも申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

●第117回講演会（関西）

テーマ：世界にはばたく日本型新商品開発と技術開発の実践例

日 時：2013年5月27日(月)13:30～17:10

会 場：中央電気倶楽部 5階ホール

プログラム：

講演①：「日本生産にこだわった新商品開発」

岡田慎也氏（ダイキン工業）

講演②：「一輪車型ロボット ムラタセイコちゃん[®]の開発」

吉川浩一氏（村田製作所）

参加費：会 員4,000円 非会員5,000円

準会員2,000円 一般学生2,500円

※当日払い

申込方法：

同封の参加申込書にご記入の上、関西支部事務局までお申し込みください。

●第116回講演会（中部）

日 時：2013年5月28日(水)13:00～16:40

会 場：刈谷市総合文化センター

1階小ホール

プログラム：

講演①：「日本のものづくり技術神話 再考～グローバル市場で選ばれるために～」

吉川良三氏（東京大学、元サムスン）

講演②：「医療工学分野における「質」の創造（仮題）」

富田直秀氏（京都大学）

参加費：会 員4,000円 非会員5,000円

準会員2,000円 一般学生2,500円

申込方法：中部支部事務局までE-mailまたはFAXにてお申し込みください。

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本 部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

中部支部：TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail: nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail: kansai@jsqc.org